令和７年 12 月５日
（2025 年）

保護者のみなさまへ

吹田市立山手小学校
校　長　佐々木康雄

令和７年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、６年生を対象として「令和７年度全国学力・学習状況調査」を実施し、８月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった６年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１　教科に関する調査の分析

●国語

【各領域における成果と課題】

《話すこと・聞くこと》

・領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。

・「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題」は全国値を上回っている。

・「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題」は全国値をやや下回っている。

《書くこと》

・領域全体の平均正答率は全国値とほぼ同じである。

・「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」は全国値を下回っている。

《読むこと》

・領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。

・「事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題」は全国値を上回っている。

・「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題」は全国値を下回っている。

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

・領域全体の平均正答率は全国値をやや上回っている。

《情報の扱い方に関する事項》
・領域全体の平均正答率は全国値をやや上回っている。
《我が国の言語文化に関する事項》
・領域全体の平均正答率は全国値をやや下回っている。

【国語科における成果と今後の改善点について】
《成果》
国語全体では全国の平均正答率をやや上回る結果となり、文章を読み取る基礎的な力が育っていることが確認できた。中央値も高く、児童の多くが一定の理解に達しており、日頃の学習習慣や読み書きの積み重ねが成果として表れている。
《改善点》
記述式問題や複合的な情報整理が必要な問題で、正答率にばらつきが見られた。今後は、自分の考えを、根拠を示して表現する力をさらに育てる授業を進めていく。

●算数
【各領域における成果と課題】
《数と計算》
・領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。
・「分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」等多くの問題で全国値を上回っている。
《図形》
・領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。
・「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題」は全国値を上回っている。
《測定》
・領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。
・「はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題」は全国値を下回っている。
《変化と関係》
・領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。
・「１０%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題」は全国値を上回っている。
《データの活用》
・領域全体の平均正答率は全国値をやや上回っている。
・「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題」は全国値を上回っている。

【算数科における成果と今後の改善点について】
《成果》
算数全体では全国の平均正答率を上回る結果となり、計算力などの基礎は身についている様子が見られる。

《改善点》
　応用問題や思考力を求められる問題で得点差が見られた。今後は、「なぜそう考えたのか」を説明する活動や、筋道立てて考える力を伸ばす学習を充実させていく。

●理科
【各領域における成果と課題】
《「エネルギー」を柱とする領域》
・領域全体の平均正答率は全国値を上回っている。
・「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題」では、全国値を上回っている。
《「粒子」を柱とする領域》
・領域全体の平均正答率は全国値をやや下回っている。
・「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題」では、全国値を下回っている。
《「生命」を柱とする領域》
・領域全体の平均正答率は全国値をやや下回っている。
・発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題」では、全国値を上回っている。
《「地球」を柱とする領域》
・領域全体の平均正答率は全国値をやや下回っている。
・「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題」では、全国値をやや上回っている。

【理科における成果と今後の改善点について】
《成果》
　理科全体では、全国の平均正答率をやや上回り、実験の結果を記録や観察したことを整理する力はおおむね身についている。
《改善点》
　「結果から理由を考える」「根拠をもとに説明する」といった思考が必要な問題に課題が見られます。今後は、実験前後の予想・考察の場面をより深め、科学的に説明する力の育成に取り組んでいく。

<u>２　生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向</u>
　今年度の全国学力・学習状況調査では、「困ったときに大人に相談できる」「国語が得意・授業がわかる」といった項目では全国平均を上回り、子どもたちが安心して学べている環境が整っていることが分かりました。一方で、「人の意見を受け止める力」「ICT機器の活用」「話し合い活動を通じた深い学び」「理科・算数への主体的な取り組み」などに課題が見られました。

　これらの結果を受けて、学校では次のような取り組みを進めてまいります。
①安心して相談できる学校づくりの継続
　これまで大切にしてきた「子どもを見守り、認め、支える姿勢」を今後も大切にし、

学級担任だけでなく、教職員全体で子どもたちを支えていきます。引き続き、困りごとを抱えた際に「相談してみよう」と思える雰囲気づくりを進めます。

②考え方の違いを受け止める力の育成
　自分と異なる意見に触れ、考えを深める経験が不足している傾向が見られました。授業の中で「ペアやグループで意見を交流する時間」「互いの考えを比べる活動」を増やし、相手を理解しようとする態度や多様な価値観を尊重する姿勢を育てていきます。

③ICT 活用の基礎スキル向上
　ICT 機器（タブレット）の操作や、調べ学習・表現活動への活用に苦手意識のある児童が多く見られました。そのため、
オクリンク等を使った「自分の考えのまとめ方」
インターネットでの「調べ方・検索のコツ」
プレゼン資料づくりの基礎
など、実際に使う場面を増やし、無理なく力がつくよう段階的に取り組みます。

④話し合い活動と「振り返り」の質を高める授業改善
　授業の中での話し合い活動や学習の振り返りが十分に機能していないことが課題として表れました。今後は、
話し合いの目的を明確にする
子どもが発言しやすいルールづくり
具体的に「どこが良かったか」「次にどう活かすか」を書く振り返りを重視し、学びが深まる授業づくりに努めます。

⑤算数・理科での主体的な学びの充実
　算数・理科では、「自分で考える」「試す」「予想する」といった主体的な姿勢に課題が見られました。これらを踏まえ、
算数：考え方を説明する時間を確保し、他者の考えとの比較から理解を深める
理科：観察・実験の時間を充実させ、「予想→実験→結果→考察」の流れを丁寧に行う
など、子どもたちが主体の授業改善を進めます。

⑥ご家庭と連携しながら、学びの土台づくりを
　学校の学びは、ご家庭での生活習慣・声かけと結びつくことで、より力強くなります。
・話したことをじっくり聞いてあげる
・分からなかった学習について、一緒に振り返る時間をつくる
・タブレットの使い方を家庭でも見守る
など、日常のちょっとしたサポートが大きな力になります。

３　今後の取り組み

　今回の調査結果は、子どもたち一人ひとりの成長を支える大切な手がかりです。学校としても、成果をさらに伸ばし、課題にしっかり取り組んでまいります。今後も保護者のみなさまと連携しながら、子どもたちのよりよい成長につながる教育を進めていきます。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。